

令和 2 年 6 月 24 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03003

研究課題名(和文)環太平洋をめぐる商品作物のグローバル・ヒストリー：島嶼植民地の重層的支配の考察

研究課題名(英文)Global History of Cash Crops in the Asia-Pacific: Multiple Empires and Insular Colonies

研究代表者

飯島 真里子(Iijima, Mariko)

上智大学・外国語学部・准教授

研究者番号：10453614

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では十九世紀末から二十世紀初頭にかけて、近代糖業(主に砂糖きび生産)が太平洋地域の島嶼植民地にどのように伝播し、現地社会において受容されたかについて検討した。「トランス・プランテーション(移植)」という概念から、近代糖業をめぐる移動性・植民地性を米帝国支配下ハワイと日本帝国下の台湾と南洋を事例から考察した。それにより、日米帝国の領域を超えた日本人の移動が植民地台湾・南洋の近代糖業の成立に大きく関わってきたことがわかった。また、糖業プランテーション制度に着目した際には、移植先での先住民・先住者と植民者の関係、土地配分や基幹産業状況が、制度の定着に大きな影響を与えたことが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究成果の学術的意義の1点めは、これまでの一帝国一植民地の枠組みで検討されてきた近代糖業史を、グローバル・ヒストリーの視点を援用することで、米帝国下のハワイと日本帝国下の台湾・南洋間という複数帝国の植民地間のネットワークを実証的に明らかにできたことである。2点めは、それらのネットワークのみならず、糖業島嶼地域間のパワーダイナミクスが明らかになり、帝国-植民地間の支配構造とは異なるアジア太平洋地域の力学地図の一片が解明されたことである。社会的意義としては、現在のアジア太平洋地域をめぐるポストコロニアリズム・グローバリズムの問題に歴史学的アプローチと視点を提供できることだと考える。

研究成果の概要(英文)：This research project examined the ways and processes of how modern sugar manufacturing industry transplanted and the plantation system adopted in the insular colonies in the Asia Pacific before WWII. By introducing the idea of "transplantation," this project examined trans-border movements that introduced sugar manufacturing skills and knowledge to the colonies and the plantation system that promoted the colonisation of these areas by looking at the modernisation of sugar. This project revealed that the movements of Japanese people who migrated beyond between America's Hawai'i, Japan's Taiwan and Nan'yo played an essential role in the modernisation of the sugar industry. When focusing on the process of introducing the plantation system, however it was observed that the relationship between colonial settlers and previous settlers/aboriginals, land distribution, and economic activities before the colonisation were essential factors in deciding the establishment of the system.

研究分野：歴史学

キーワード：糖業 トランスプランテーション 台湾 南洋 ハワイ 日本帝国 アジア太平洋地域 日本移民

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究においては、以下の三分野（日本帝国をめぐる移動史、商品作物のグローバル・ヒストリー、環太平洋地域の植民地研究）の先行研究を念頭において、プロジェクトを始めた。

#### 日本帝国をめぐる移動に関する歴史学的研究

蘭（分担者）をはじめ、日本帝国をめぐる人の移動（植民・移民、強制連行、引揚げ等）に関する研究は日本帝国史の領域でも盛んに行われてきたが、その移動は日本帝国勢力圏内（本国植民地）で完結する傾向にあり、太平洋上を視野にいれた広域の移動についての考察は希薄であった。しかし、最近、東（海外研究協力者）による元北米移民の満州での近代的農業技術の導入や飯島（研究代表者）の元ハワイ移民による台湾でのコーヒー農園開発の研究事例が示すように、太平洋地域に勢力を伸ばしていた異なる帝国を跨ぐ日本人の移動が解明されてきた。よって、本企画では、従来の本国 - 植民地間移動に加え、帝国間移動やディアスポラの移動に着目し研究を進める。

#### 商品作物をめぐるグローバル・ヒストリー

一國史に対する批判的眼差しから始まったグローバル・ヒストリーは、国民国家を超えた連関性や移動性に注目し研究を行ってきた。そこでは、人ばかりではなく、国境を超えるモノや事象も研究対象とし、本研究が取り上げる商品作物（砂糖）もその一つといえる。しかし、商品作物をめぐるグローバル・ヒストリーの多くは、ミンツ著『甘さと権力』をはじめ西欧帝国による植民地支配、資本主義経済の形成の考察に重点を置き、アジアや環太平洋を周辺地域として扱ってきた。一方、日本帝国史においては、近年、台湾を中心に茶、砂糖、樟脳等の商品作物の経済史的考察が活発になされているが、国際市場への参入や流通ネットワークの解明が主であり、商品作物となった産地の植民地の経験に関する考察は少ない。よって、本研究は、環太平洋地域における商品作物をめぐる一連の移動の帰結としての植民地支配を、被支配者となった栽培者（先住民と移住者）の経験から描き出すことを目的の一つとする。

#### 環太平洋地域の島嶼植民地に関する研究

太平洋の島嶼地域の多くは、19世紀半ば以降、複数帝国による支配や移民流入を経験してきた。例えば、サイパン（南洋群島）は日本帝国委任統治領になる前に、スペイン帝国、ドイツ帝国による支配の歴史を有する。また、ハワイは米国編入以前から欧米帝国・アジア帝国から移民を誘致しており、このような背景は複数帝国の影響を受けてきたことを示唆する。本研究では、これまで一帝国の植民地として理解されてきた島嶼地域を複数帝国が折り重なる場として認識することで、一帝国の枠組みを超えたグローバル・ヒストリーの構築をめざすとともに帝国支配の重層性を理解するための分析材料としての島嶼植民地の重要性について検討する。

### 2. 研究の目的

以上の先行研究から、本研究プロジェクトでは、以下の三点を解明することを目的とした。

#### 移動の多方向性と多様性

日本帝国植民地における商品作物の伝播に注目した場合、その経路や伝播に関わった日本人の背景は多様であり、それらが複雑に絡み合っただけでなく、植民地に到達したと考えられる。台湾を例にとっても、(A)植民地支配の中核を担った官僚・技術者による本国から植民地への帝国内移動、(B)生産方式や資本の移動に関わった大企業・商人による欧米帝国勢力圏から日本帝国勢力圏への帝国間移動、(C)欧米植民地での栽培経験を持って日本帝国勢力圏内外を縦横無尽に移動した移民農業者のディアスポラの移動が挙げられる。これらを史料分析から明らかにし、これまで境界を超えること自体（「トランス」）を強調してきた移動に対する理解を複雑化するとともに、移動した日本人の階級・背景・目的の多様性を浮き彫りにする。

#### 移動がもたらした複数帝国による影響

次に、同時期に発生した上記の移動が植民地に辿り着いた先での影響について解明する。例えば、台湾の砂糖栽培は、蘭領ジャワでの留学経験を持つ田代安定が熱帯気候を生かした「殖産事業」を提案したことにより、その試験的栽培が始まった。その後、米領ハワイの日本人移民事業に深く関わり、同地の糖業にも詳しく三井物産が商業的生産に着手した。さらに、生産拡大の過程で、台湾総督府は英領・蘭領植民地の糖業に関する研究を詳細に行った。このように、島嶼植民地では多くの場合、複数の帝国から栽培技術・生産方法を学び合い、活用することで植民地経済の独立を図った。よって、本研究では商品作物を研究対象とすることで、島嶼植民地に対する複数帝国の重層的影響を明らかにする。

#### 島嶼地域における植民地経験

複数帝国を経由してきた農園式栽培方法や機械生産技術の導入は、先住民所有地の接収・分割や人種に基づく階級の創出など、帝國的支配の構造を経済活動のみならず地元社会にも浸透させた。しかし、ストーラー（『プランテーションの社会史』）が論じるように、被支配者（＝栽培者）たちは従属するのではなく、帝國的抑圧に対して様々な反応（受容、協調、抵抗、逸脱）を見せた。実際、中西（協力者）は、日本統治下の台湾先住民が清帝国のネットワークを活用しながら商業を展開したことを指摘している。よって、複数帝国による島嶼地域の支配の歴史的背景

を念頭に置きながら、被支配者の植民地経験を史料分析と現地調査から明らかにする。

### 3. 研究の方法

平成 28 年度は島嶼植民地（台湾、沖縄、南洋群島、台湾、ジャワ、小笠原）における商品作物栽培・生産に関わる史料収集・分析を行い、各植民地との関連性を明らかにする。また、考察結果を先行研究（グローバル・ヒストリー、帝国・植民地研究、島嶼史研究）の中で位置づける。

平成 29 年度は、各研究メンバーが現地調査を行い、島嶼植民地における商品作物の栽培者（先住民、移住者）の植民地経験を検討する。

最終年度となる平成 30 年度は、研究成果のまとめとして国際シンポジウム（上智大学）を企画し、その後、各自の発表に基づいたワーキングペーパーを日本語と英語で作成する。翌年度は、ワーキングペーパーを発展させ、学術雑誌 *Historische Anthropologie*（ドイツ）の特集号として各メンバーの研究成果の出版を目指す。

### 4. 研究成果

本研究では十九世紀末から二十世紀初頭にかけて、近代糖業（主に砂糖きび生産）を事例として、人・植物・技術（経験知）・栽培システム（プランテーション）が、太平洋地域の島嶼植民地にどのように伝播し、現地社会において受容されたかについて検討した。以下、その成果の要点を四点にまとめる。

#### 「トランス・プランテーション(移植)」の概念化

上記 2. 研究の目的を達成するために、本研究では ~ の要素を含めて議論できるような概念について検討を重ね、「トランス・プランテーション(移植)」という概念にたどり着いた。本研究では、「トランス・プランテーション(移植)」は複数の意味合いを持つ概念として定義した。具体的には、(1)プランテーション型栽培システム、もしくはそのアイデアを移動させた人々（日本人）の越境性、(2)移動・越境したプランテーション型栽培システムの内容（変容、適応、拒否）(3)(1) (2)の移動経路とプロセスである。つまり、移動の主体・経路・プロセスと移動前後の社会・経済状況を議論するツールとして、トランス・プランテーションを使用するとした。

#### 移動の多方向性と多様性

まず、トランス・プランテーションの定義(1)(2)の点にあたっては、米帝国支配下のハワイと日本帝国下の台湾と南洋群島間の人・技術・システムの移動を明らかにした。それにより、日米帝国の領域を超えた日本人の移動が植民地台湾・南洋の近代糖業の成立に大きく関わってきたことが明らかになった。先行研究が一帝国一植民地の枠組みで検討されてきた近代糖業史を、トランス・プランテーションの概念を活用することで、ハワイ、台湾、南洋群島という二つ帝国の複数植民地間のネットワークが実証された。また、ハワイから日本帝国植民地に移動した日本人は、実業家、労働者、元留学生、技術者など多岐に渡る背景を持つ移動者であり、それぞれのネットワークが補完し合うことで日本植民地における近代糖業の成立が可能となったことがわかり、今後ジャワを含めたアジアにおける近代糖業地域と日本帝国との関連性の検討にも応用できると考える。

#### 島嶼地域におけるプランテーションの定着・変容

トランス・プランテーションの定義(3)に関しては、移植先での先住民・先住者と植民者の関係、土地配分や基幹産業状況が、プランテーション・システムの定着に大きな影響を与えたことが明らかとなった。具体的には、日本統治前から在住していた地元住民や先住民が農業を行っていた台湾ではプランテーション・システムが定着せず、一方で、南洋興発が広大な土地を所有していた南洋群島では日本人（沖縄出身者含む）の小作人を主な労働力としたプランテーション（大農園）・システムが導入された。このことは、日本帝国下の植民地支配における実態の多様性を示唆するとともに、近代糖業＝プランテーション・システムという先行研究の理解に一石を投じる成果だといえる。

#### アジア太平洋地域の力学地図

日本統治下の台湾や南洋よりも 20-30 年ほど早く糖業の近代化が始まったハワイでは、日本人移民（サトウキビ栽培経験者・技術者・実業家）が台湾での糖業設立にあたり、同地へ移動していたことが史料調査からわかった。また、このような近代糖業をめぐる人流は、ハワイにおいて、台湾が近代化されてない未熟な「子ども」のような存在であるという認識を作り出した。つまり、一帝国における植民地間の支配構造とは異なる、糖業の近代化を指標としたアジア太平洋地域の力学が生成されたといえる。これにより、帝国・植民地という枠組みのみでは理解できない、アジア太平洋地域内の複雑なパワーダイナミックスの一部と浮き彫りとなった。

以上の研究成果は当初の目標通り *Historische Anthropologie* の特集号（2019 年）として英語で

出版された。それに加え、2020年度には日本農業史年次大会でのシンポジウム（7月18日、京都大学）、同学会誌『農業史』でも研究成果が発表される予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Iijima, Mariko	4. 巻 27-3
2. 論文標題 Sugar Islands in the Pacific in the Early Twentieth Century: Taiwan as a Protege of Hawai ' i	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Historische Anthropologie	6. 最初と最後の頁 361-381
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.7788/hian.2019.27.3.361">https://doi.org/10.7788/hian.2019.27.3.361</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Dusinberre, Martin and Iijima, Mariko	4. 巻 27-3
2. 論文標題 Editorial: Transplantation: Sugar and Imperial Practice in Japan ' s Pacific	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Historische Anthropologie	6. 最初と最後の頁 325-335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.7788/hian.2019.27.3.325">https://doi.org/10.7788/hian.2019.27.3.325</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Mori, Akiko	4. 巻 27-3
2. 論文標題 A History of the Excluded: Rethinking the Sugar Industry in the Northern Mariana Islands under Japanese Rule	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Historische Anthropologie	6. 最初と最後の頁 410-434
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.7788/hian.2019.27.3.410">https://doi.org/10.7788/hian.2019.27.3.410</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Dusinberre, Martin	4. 巻 27-3
2. 論文標題 The Changing Face of Labour between Hawai ' i, Japan and colonial Taiwan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Historische Anthropologie	6. 最初と最後の頁 336-360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.7788/hian.2019.27.3.336">https://doi.org/10.7788/hian.2019.27.3.336</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsubota=Nakanishi, Miki	4. 巻 27-3
2. 論文標題 The Absence of Plantations in the Taiwanese Sugar Industry: Problems of Land and Labour under Japanese Rule	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Historische Anthropologie	6. 最初と最後の頁 385-409
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.7788/hian.2019.27.3.385">https://doi.org/10.7788/hian.2019.27.3.385</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iijima, Mariko	4. 巻 32
2. 論文標題 Coffee Production in the Asia-Pacific Region: The Establishment of a Japanese Diasporic Network in the Early 20th Century	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of International Economic Studies	6. 最初と最後の頁 75-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森田紀子	4. 巻 290
2. 論文標題 帝国崩壊後沖縄における南洋群島引揚者－在外財産補償運動を担った開拓世代の経験から－	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新しい歴史学のために	6. 最初と最後の頁 34 - 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Martin Dusingberre	4. 巻 83 - 1
2. 論文標題 Japan, Global History and the Great Silence	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 History Workshop Journal	6. 最初と最後の頁 130 - 150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/hwj/dbx012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dusinberre, Martin and Thomsen, Hans	4. 巻 14
2. 論文標題 Ein Bild für den Kaiser	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 NZZ Geschichte	6. 最初と最後の頁 12 - 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 Iijima, Mariko
2. 発表標題 Collaborating colonies: Sugar Industry and Migrants in Japan's Pacific
3. 学会等名 Competing Imperialisms in Northeast Asia, 1894-1953 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森亜紀子
2. 発表標題 複数の旋律を聞くーサイパン島に暮らした沖縄の人々の語りに映る他者の存在
3. 学会等名 済州大学平和研究所学術会議「太平洋戦争の記憶と平和への道」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯島真里子
2. 発表標題 商品作物をめぐるコロニアリズムー日本帝国、移民、グローバリゼーション
3. 学会等名 シンポジウム「帝国とグローバリゼーションー社会生態史的アプローチ」(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坪田=中西美貴
2. 発表標題 帝国労働者 日本人農業移民と台湾
3. 学会等名 シンポジウム「帝国とグローバリゼーションー社会生態史的アプローチ」(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯島真里子
2. 発表標題 アジア太平洋をめぐる砂糖ネットワークー20世紀前半のハワイ 台湾関連史
3. 学会等名 移民学会第29回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪田=中西美貴
2. 発表標題 日本統治期台湾におけるサトウキビ栽培と日本人移民ー私営移民「失敗」の検討を中心に
3. 学会等名 移民学会第29回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯島真里子
2. 発表標題 Coffee Production in the Asia-Pacific: The Circulation of Japanese People, Plants and Production Skills before WWII
3. 学会等名 The Organization of American Historians (国際学会)
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 森亜紀子
2. 発表標題 複数の旋律を聞く 南洋帰りのひとびとの<植民地・戦争・引揚>体験とその語りが教えてくれたこと
3. 学会等名 沖縄戦精神保健研究会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯島真里子
2. 発表標題 Sugar Islands in the Pacific in the Early 20th Century: Taiwan as a Protege of Hawaii
3. 学会等名 Sophia Symposium: Practicing Power in the Global Asia-Pacific: Environments, Migrants, Womanhood 2018
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森亜紀子
2. 発表標題 A History of the Excluded: Rethinking the Sugar Industry in the Northern Mariana Islands under Japanese Rule
3. 学会等名 Sophia Symposium: Practicing Power in the Global Asia-Pacific: Environments, Migrants, Womanhood
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Iijima, Mariko
2. 発表標題 Coffee Web: Remapping the Movements of People and objects and knowledge across Asia-Pacific Region
3. 学会等名 Bodies and Structures: Deep-Mapping the Spaces of Japanese History(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Iijima, Mariko
2. 発表標題 Connecting Japanese Diasporas in the Asia-Pacific: Movements of People, Agricultural Commodities, and Production Skills from Hawai'i to Taiwan
3. 学会等名 Japanese Diaspora Initiative Workshop (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Dusinberre, Martin
2. 発表標題 Das Japanische Kaiserreich, 1868-1945 ["The Japanese Empire, 1868-1945"]
3. 学会等名 Volkshochschule [adult education center] (Zurich) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Iijima, Mariko
2. 発表標題 Japanese Diasporic Network across the Pacific before WWII: Migrations of People, Coffee Plants and Production Skills from Hawai'i to the Japanese Insular Territories
3. 学会等名 The Pacific Branch of the American Historical Association Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 飯島真里子
2. 発表標題 移動する沖縄女性 ハワイ、フィリピンの女性移民
3. 学会等名 連続歴史講座「沖縄女性の近現代」(招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 新井隆、飯高伸五、石村智、石森大知、岩本洋光、大石太郎、小野林太郎、風間計博、加藤晃生、北原卓也、グレッグ・ドボルザー、黒崎岳大、後藤明、小西潤子、小林誠、坂野徹、四條真也、清水久夫、城田愛、菅沼文乃、関根久雄、田所聖志、永田由利子、中原聖乃、中村遂彦、森垂紀子ら	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 368
3. 書名 太平洋諸島の歴史を知るための60章	
1. 著者名 蘭信三、福本拓、駒井洋、津崎克彦、恵羅さとみ、高畑幸、中島弘象、山口恵、志南啓、伊原亮司、郭潔睿、佐々木貴文、鈴木江理子、定松文、安藤光義、	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 産業構造の変化と外国人労働者 労働現場の実態と歴史的視点	
1. 著者名 飯島真里子、内村俊太、高橋暁生、米山かおる、岩崎えり奈、野澤丈二、杉浦末樹、石井紀子、佐々木一恵、矢澤達宏、小塩和人	4. 発行年 2018年
2. 出版社 上智大学出版	5. 総ページ数 332
3. 書名 グローバル・ヒストリーズー「ナショナル」を越えて	
1. 著者名 森垂紀子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 新月舎	5. 総ページ数 303
3. 書名 はじまりの光景ー日本統治下南洋群島に暮らした沖縄移民の語りからー	

1. 著者名 Akira Iriye, Ethan Mark, Barak Kushner, Penelope Franks, Mark Ravina, Antony Best, Christopher W.A. Szpeilman, Harald Fuess, Peter O'Connor, Sandra Wilson, Robert Cribb, Rotem Kowner, Martin Dusanberre, Gavan McCormack, Koichiro Matsuda, Kate Wildman Nakai, Sven Saaler, Michael A. Schneider, Roger H. Brown, Kato Yoko	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 532
3. 書名 Routledge Handbook of Modern Japanese History	

1. 著者名 飯島真里子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 沖縄県教育委員会	5. 総ページ数 209 - 223
3. 書名 沖縄県史 各論編 8 女性史	

1. 著者名 森亜紀子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 新月舎	5. 総ページ数 378
3. 書名 複数の旋律を聞く 沖縄・南洋群島に生きたひとびとの声と生	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Practicing Power in the Global Asia-Pacific <a href="https://instacs2.wixsite.com/practicing-power">https://instacs2.wixsite.com/practicing-power</a> Mariko Iijima's website marikosijima.jp
--

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	蘭 信三  (Araragi Shinzo)  (30159503)	上智大学・総合グローバル学部・教授    (32621)	
研究 分 担 者	森 亜紀子  (Mori Akiko)  (30772727)	同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員    (34310)	